



## 2660 地区大会 報告

2015年12月4日(金)リーガロイヤルホテル

RI会長代理夫妻歓迎晩餐会

2015年12月5日(土)大阪国際会議場

夢のデュオ・コンサート+式典+特別シンポジウム  
ホストクラブ：大阪RC

### 【RI会長代理夫妻歓迎晩餐会】

大会の皮切りとなる晩餐会。冒頭に立野純三ガバナーから来賓紹介とともに「おいしい食事と楽しい時間を!」と呼びかけてのあいさつがあり、水野正人RI会長代理からもあたたかなスピーチが贈られた。

次いで鏡開き、泉博朗直前ガバナーの乾杯で宴が始まった。ロイヤルホテルの宮川シェフによる大阪産(大阪もん)の食材を厳選した料理、関西二期会のメンバーによる、ヨハン・シュトラウスのオペレッタ「こうもり」の見事なアンサンブルで大いに盛り上がりを見せた。

来賓のソウルRCのディヴィッド・チャン会員からは、2016年にソウルで開かれるロータリー国際大会のアウトラインが紹介された。

### 【夢のデュオ・コンサート】

大会2日目最初のプログラムは、人気も技量も定評があり、海外で大活躍中のヴァイオリニスト・庄司紗矢香さんと、ピアニストの小菅優さんによるデュオ・コンサート。とりわけベートーヴェンのヴァイオリンソナタ第5番<春>では、庄司さんが優美な響きをつくり、小菅さんはそのデリケートさに呼応する細やかなタッチによってハーモニーを構成していた。

音の粒をきれいに揃えた小菅さんのピアノ・ソロが2曲続き、最後の2曲は両者のそうした品の良い音色が組み合わせ、お互い美質をよく引き立てていた。なお、このコンサートは会員家族・招待青少年にも公開され、多数の来場が実現した。

### 【式典】(前半)

ここから立野年度の活動の発表の場となる。点鐘に先立つ「ポール・ハリス劇場」で、ロータリー活動の始まりが和やかに語られ、これを受けて現在の国際ロータリーのテーマが映像によって紹介された。最初に松澤佑次・大会実行委員長の歓迎の辞に続いて、立野ガバナーと司会者から水野RI会長代理は

じめロータリークラブ関係のゲスト、出向役員、各クラブ、青少年グループが紹介された。

立野ガバナーの地区方針は「変革を!ロータリーを通じて奉仕(プレゼント)を!」であるが、この日はこの方針をどのようにステップアップするかについての地区現況報告がなされた。「ロータリアンは、世界各地、日本各地での出来事に無関心ではなく、自らが行動を起こす必要がある。傍観するのではなく、今自分が出来ることをいち早く行う必要がある。もっと、日本の将来を担う青少年育成に積極的に関わり、そのためにも時代にあった新しい育成プログラムの開発が喫緊の課題だ」と述べた。そして、各クラブに設置を要請している戦略計画委員会がビジョンを持って臨むべきとした。

水野RI会長代理による「RI現況報告」では、RIのラビンドラン会長の方針や言葉が紹介され、ロータリー財団改革がなされたことで奉仕活動の積極的展開が進むであろうことなどが紹介された。そして自身の経験をふまえながら「人の心を動かすロータリー活動であるべき」と述べた。さらに、ロータリアンの基本、ロータリー活動にしかない視点が<職業奉仕>であると述べ、「これは日本に古くからある商業道の言葉<売り手良し、買い手良し、世間良し>に通じるものである。高潔で高い道德観で自らの生業を社会のために発展させるのがロータリアンの使命だ」と解説が加えられた。

引き続き、信任状委員会・選挙委員会の報告の後、立野ガバナーが議長として、決議委員会が用意した決議案を、地区として採択した(10ページ参照)。

### 【特別シンポジウム】

”究極の職業奉仕“ 関西発の医療イノベーション

—最先端研究から創薬へ

講演者の岸本忠三・大阪大学名誉教授(大阪RC元会長)と本庶佑・京都大学名誉教授は世界的なレベルの科学者であり、文化勲章受賞者であり、そして今も現役の研究者。それぞれの功績は、免疫難病治療やがん治療の基礎研究で自ら発見した分子から特効薬を作ること成功したケースである。宮原秀夫会員・大阪大学名誉教授と本田孔士会員・京都大学名誉教授(いずれも大阪RC)が講演者紹介などの

コーディネーター役を務めた。

まず、岸本教授から「免疫難病治療—大阪から世界へ」というテーマで基調講演があった。岸本教授は自ら発見されたIL-6分子が、多くの疾患の発症に関与していることを解明するに至った。そして、IL-6の抗体(アクテムラ)を疾患の治療に応用し、リウマチを始め多くの難病に苦しむ世界中の人々を救う効果につなげた経緯を語った。

続いての本席教授の基調講演は「がんは治る:がん免疫治療薬PD-1抗体」というテーマである。同じように、免疫制御する遺伝子を解明してきた本席教授は、免疫力を活性化すればがん治療が可能であることを発見し、PD-1抗体ががん治療薬として承認されるために尽力した。

講演に続いたトークで、岸本教授は、明治以降の日本が大学の基礎研究を重視したことが日本を発展させ、ノーベル賞受賞者を輩出する成果を生んだとする。本席教授は、特にライフサイエンスでは最初に成果が見通しにくいので、いろいろな可能性を試すことが非常に重要だと語っている。それゆえに、すぐに結果を求めるのではなく、長期的視点による投資、政府や企業による基礎研究へのバックアップの動きがほしいと締めくくった。

【式典】(後半)

式典の後半は功績に対する表彰式、ソウルで開催

されるロータリー国際大会が映像によって紹介から始まった。続いて、立野ガバナーによる松本進也ガバナーエレクト(大阪北RC)、片山勉ガバナーノミネー(大阪東RC)、山本博史ガバナーノミネー・デジグネット(大阪南RC)の親愛の情あふれる言葉での紹介があり、それに応えた決意のあいさつがあった。

また、次期大会のホストクラブを大阪北RCが務めることが発表され、同クラブの原眞一会長から歓迎の言葉があった。

主な行事がほぼ終わったところで、水野RI会長代理からの講評があり、大会全体の設営への感謝と2日間のアテンドを務めた岡部PG夫妻への感謝がこめられた。そして参加者全員に向けて、100年を迎えようとしている日本のロータリー活動は、われわれ自らが15歳若返る意識で取り組みればより活性化するはずだ、とエールを頂戴した。

この後、水野RI会長代理と泉・直前ガバナーへの記念品贈呈、ホストクラブの吉川秀隆・大阪RC会長から、遠来のゲストへの感謝の言葉があり、一日の幕を閉じた。最後まで多くのロータリアンに参加を得た、ロータリーの友好の精神を感じる2日間であった。

出席者数：晩餐会出席 431名、大会登録 3613名  
(2015年8月1日現在の2660地区会員が全員登録)、  
行事参加申込 2491名、大会出席 約1815名

